



# たがじょう

発行日／平成29年2月28日

発行／多賀城高等学校

PTA広報委員会

宮城県多賀城市

笠神2丁目17番1号

TEL 022-366-1225

FAX 022-366-1226

印刷／株工陽社 塩竈市

TEL 022-365-1151



- 卒業に寄せて.....2
- 三年間の思い出.....2～3
- 多高祭、体育祭.....5
- 修学旅行.....6
- 平成28年度進路情報、芸術鑑賞会.....7
- 青春の1ページ、世界津波の日 高校生サミット、  
広報委員、編集後記.....8

ちゅーも  
ゆたかに  
たがじょう



## 卒業に寄せて

三学年委員長

渡邊直子



今年度の三学年委員長を務めさせて頂きました。皆様の多大なるご協力と先生方のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

桜満開の春の日、新しい制服に身を包み、多賀城高校に入学したのが、昨日のことのように思い出されます。あつと言う間の三年間でしたが、携帯で写してくる学校の様々な出来事を見聞きし、親も一緒にになって、楽しい思い出の日々を刻むことが出来ました。卒業を迎え、これからそれぞれの場所での新たなスタートをきる皆さん、今いる場所を楽しい所にするか、嫌な所にするかは、ただ自分の心ひとつです。

どこかの歌にもあるように、ナンバーワンにならなくてもいい、世界の一つだけの自分の花を、しっかりと地面に足をつけ、大きく咲かせていっ

て下さい。ずっとずっと、見守っています。

## 三年間の思い出

### 私の三年間の思い出

三年一組 太田 園子

私はこの三年間たくさんの思い出ができました。その中でも部活動は、自分が一生懸命になれる場であり、多くの事を学べる場でもありました。私はバドミントン部に所属していました。私はベスト8という目標を設定し多くの公式戦に出場しました。結果は、



ベスト16で敗退という悔しいものでした。しかし、ベスト16までいけたのは、部員からの応援やコーチングしてくれた顧問の先生のお陰です。とても感謝しています。また、辛い練習を共に乗り越えてきた同級生や先輩、後輩は私にとって大切な存在です。

部活動以外にも三大行事、修学旅行など多くの思い出を作ることができました。とても充実していて幸せでした。

## 卒業を迎えて 今、思うこと

三年二組 澤田 望咲

卒業を間近にした今、三年間の高校生活を振り返ってみると色々な方の支えがあったからこそ今の自分があると改めて感じます。受験をする際には、志望理由書の作成や面接練習、小論文添削指導の際には沢山の先生方に協力していただきました。また、部活動の面では、私が部長という立場を成し遂げることができたのも、部員みんなや顧問の先生の支えがあったからこそ



と向き合い、高校野球と向き合ってきた。

高校野球の思い出はほとんどが辛かったこと、苦しかったことばかりだった。レギュラーから外れたり、怪我で練習に参加できなかったり、不甲斐ない結果しか残せない自分に対しての苛立ちだったりと、今でも思い返すと悔しさが込み上げてくる。しかし、その思い出全てが、私を野球人として、人として大きくしてくれた。これから、どんな壁にぶつかっても、高校生活を思い出せば、きっと立ち向かい、乗り越えることができるだろう。

## 見えない成長

三年三組 佐藤 匠

高校生活を改めて振り返ってみると、怪我と二人三脚であったと感じる。怪我という爆弾を抱えながらも日々自分





## 多賀城高校での三年間

三年四組 船野 太成



にも全力で取り組んだ。その結果、球技大会バスケット優勝、体育祭総合優勝など、四組の団結力を一段と発揮することができた。今後も、クラス目標である四組全員志望校合格に向け、これまで同様最後まで全力で努力していきたい。

### 三年間の高校生活

三年五組 滝沢 友哉

私は多賀城高校生として毎日充実した生活を送ることができました。

修学旅行は、関西の観光を楽しみながらその土地の歴史に触れることのできた良い機会となりました。また、多高



友達には本当に恵まれた。入学した時は不安だったが、そんな不安はすぐに消え、友達とすぐに打ち解け合い、充実した高校生活を送ることができた。卒業を間近にした今、私は実感している。修学旅行では本当に楽しい思い出が少なく、これまで以上に深い友情関係を築くことができ、心から信頼できる仲間が増えた。これは自分にとって一生の財産になるだろう。三年生になり、受験勉強はもうそろそろだが、最後の学校行事

三大行事については、中学校までとは違った雰囲気を感じ、達成感を味わったのとともに、多賀城高校の魅力を感じられました。学習の面では、定期試験が近づいてから勉強を始めることがありましたが、受験期になると学年全体の姿勢が変わり、全員の意識が高まりました。

このような経験から、仲間の協力が最も大切なことだと改めて実感しました。卒業後もそれを忘れないようにしたいです。

### 三年間の思い出

三年六組 佐藤 楓

この学校に来て三年が経とうとしている。今となってとても早かったと感じている。この学校に来て私には様々な思い出がある。

私はバレーボール部に所属していた。練習試合をしていくにつれて、プレーを磨くだけでなく他校の人との交流も増やすことができた。部活動で得た知識や経験によって、自分自身を成長させることができたと思う。



また、クラスで過ごした放課後はとても楽しかった。たくさん騒いでバカやって、テスト前はいつもより必死に勉強して。体育祭で「応援頑張ったDE賞」を貰い、みんなで協力することの大切さをより知ることができた気がする。

これらの思い出を糧にこれからも頑張っていきたい。

### 色の濃い三年間

三年七組 渡邊 七海

原稿の依頼がきたとき、改めて三年間を見つめ直してみました。修学旅行が楽しかったなあと、行事が思い出に残っているなあと、様々なこ



とが思い浮かんできましたが、一番の思い出は何気なく過ごしている毎日だったと思います。長い人生の中でたった三年間しかない高校生活の中で、くだらないことで友達と笑い合ったり、何かに悩んで一人で泣いたり、高校生活でしか味わえない楽しさも、辛さも味わうことができました。当たり前に充実した三年間を過ごしたことが、一番の幸せでありこれからの人生の大きな財産になると思います。

この三年間、友達・家族・先生がいたから成長できました。ありがとうございました。



# 体育祭

## 新たな体育祭

### 体育祭実行委員長

三年一組 鈴木 莉佳子

今年の体育祭は昨年の反省を活かし、より良い体育祭にするために実行委員一同、意見を出し合いながら企画や準備に力を入れてきました。昨年までトーナメント制で行われていた10人11脚をタイムレース制の14人15脚にしたことで、クラスが一致団結して迫力のある競技となりました。また、昨年に引き続きバンブーリレーも大いに盛り上がり、多高体育祭を代表する競技となりました。さらに、「応援頑張ったDE賞」を新しく設けたことで、皆さんがより団結して楽しんでいる姿を見ることが出来ました。

これは、実行委員をはじめ、有志で運営を手伝ってくれた陸上部、野球部、サッカー部の生徒の皆さんの協力があつてのことと感謝しています。体育祭実行委員を三年間続けてきて、最後に委員長として締めくくることができ、高校生最後の行事を最高の思い出にすることが出来ました。





# 多高祭



## 多高祭を振り返って

多高祭実行委員長

三年六組 高橋 日菜乃

九月二日・三日に行われた多高祭では「情熱の多高祭」みんなが僕の「アモーレ」というスローガンを掲げ、笑顔あふれる楽しい多高祭にしようとは毎日常行委員で集まりアイディアを出し合いました。その甲斐あって当日は校内様々な場所で盛り上がりを見せ、昨年よりも多くの方が来場してくださいました。そして、「おもしろかった」「楽しかった」と言ってもらう度、自分達が愛を込めて作ってきたものがみんなの笑顔に繋がったのだと感じとても嬉しかったです。

多高祭を成功できたのは決して個人の力ではなく数えきれない程の人達に支えてもらっていたからだと感じました。実行委員はもちろん、先生方、ステージ発表をしてくれた文化部や有志の方、映像や音楽面で協力してくれた方、さらには来場してくださった方の全員がいたからこそ今年の多高祭は成功することができたのだと強く思います。本当にありがとうございました。



# 修学旅行



## 人生の思い出の1ページ

修学旅行実行副委員長

二年一組 齊藤 健太

4日間の関西への修学旅行は、非常に中身の濃いものでした。歴史的建造物や名所など、たくさん場所を巡り、様々な文化に触れることができたと感じます。クラス別研修では、7クラスそれぞれが奈良公園やUSJなど、クラスで決めた場所に行きました。また、班別研修では、各班で決めたテーマに沿った場所に行き、たくさんの思い出を作ることができました。私の班も道に迷いながらも、何とか計画をこなすことができたので良かったです。中でも高山寺には、国宝に指定されている鳥獣戯画があつて、約800年前に描かれた作品を見ていると思うと、不思議な気持ちになりました。

学年全体で訪れた清水寺・金閣寺・二条城・三十三間堂。どれも社会科の資料集で見たことのある場所で、実際に行くと、皆興奮が隠せない様子でした。私も、そこで見じみと歴史の流れを感じることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。







## 青春の1ページ

## 「多賀城高校と私」

教諭 菊田 みどり

私は青春真っ只中である（と思いついでいる）。なぜなら高校生、教育実習生、講師、教諭として、人生の約3分の1をこの多賀城高校で過ごしてきた私にとって、「青春＝多賀城高校」と言っても過言ではないからだ。最初は、自転車を通えるから乗り物酔いをしてなくて済むという理由で選んだ多賀城高校。まさかこれ程までに長い時間を過ごすことになるとはみじんも思っていなかった。

私が高校生だった頃は制服が今とは異なり、開校当初から続いていた少し明るめの紺色ブレザーに千鳥格子柄のネクタイとスカートであった。そろそろ高校時代の思い出話をしようと思う。当時流行っていたルーズソックスを履きこなし、ミス多高に選ばれ、華やかな毎日を過ごしていた。…と言いたいところだが、実際は誕生日に女バスからもらったフチシリーズのおせんべいが口に何枚入るか試すことになり、喉に詰まって死にかけたような地味な思い出しかない。つまり、人様に話せるような思い出など一切なく、ひたすら部活に打ち込んでいたことしか覚えていない。しかし、部活に打ち込んでき



体で「しめすへん」を表すJK

たからこそ、最終的にはパティシエではなく教員を目指すことになり、その後は教育実習生や講師として素直で優しい先輩たちと出会い、多くの時間を共に過ごした。特に、多高祭で披露したT先生（あえて誰かは伏せておく）との歌と踊りはまさに青春であった。当時はなかなか採用試験に受からず、何度も心が折れかけたが、先輩たちとの青春が背中を押してくれて約三十五歳の壁を突破することができた。

ところで、今の制服は平成二十年度から改定された。個人的にはあやめ色のチェック柄が気に入っている。話の流れからすると、新制服を初めて着たのは平成二十年度入学生だと思いがあろう。ここで声を大にして言いたい。メーカーから届いた完成品第1号に初めて袖を通したのは、当時講師で在籍していたこの私なのである。この思い出こそが一番の「青春の1ページ」なのかもしれない。あれから八年。今は教諭として多賀城高校に戻り、新たな先輩たちと青春を謳歌している。久しぶりに袖を通せる日を夢見て。

平成28年度の  
広報委員

## ● 1 学年

宮下美智子・味上 美紀  
小松 晴美

## ● 2 学年

阿部早智子・笠原かおり  
佐藤 直美・太齋 洋子  
阿部 由美・丹野 京子  
玉田 恵美・石山美保子

## ● 3 学年

斎藤 美保・前田 美紀  
阿部真喜子



## 編集後記

役員の方のおかげで、つつがなく広報の仕事をする事ができ有意義な時間を過ごせました。

ご協力いただいた先生方、保護者の皆様ありがとうございました。  
＜広報委員＞

## 世界津波の日 高校生サミット



11月23日から26日に青少年による国際会議「世界津波の日 高校生サミット」が開催され、世界30か国の高校生約360人が集まりました。

25、26日は高知県黒潮町で開催され、本校からは代表3名が参加しました。黒潮町は、南海トラフ地震による被害想定において、津波高34.4メートルという国内一の想定がされています。26日は分科会が行われ、「高校生に何ができるか」という視点で、それぞれのテーマに基づいたアクションプランを作成しました。本校は、「都市型津波における防災・減災～『津波波高標示プレート』設置活動を通して～」というプレゼンテーションを行い、多くの共感をいただきました。

2年6組 工藤 綺乃

今回参加して思ったことは、津波をもう少し具体的に世界に発信した方がよいということです。同じグループの中で、津波について聞いたところ、私たちの認識と大きく異なっているところがありました。その差を埋め、津波の怖さを共通認識していくことが大切だと思います。

また、今回多くの国や地域の人と関わることができて良かったです。多くの人と関わっていくことが防災の第一歩となるはず。多くの人とのつながりを、学校でまた広げ、どんどんその輪を大きくし、一つの大きな輪をつくっていきたいです。